

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	具体的に理念にはあげていないので、理念を見直し、この地域で安心・安全に暮らし、関係性の継続など生活を支えるための理念を検討しなおしたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		申し送りやカンファレンス・ミーティング等、ホーム内の研修において、考え、具体的なケアに結びつけている
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	家族会等で、折にふれ説明している。又、来訪者の方にも支障のない範囲で、具体的にわかりやすく説明している 都市型のホームにて、地域性に欠けるのが一番の悩み。悩み解決にむけて、もう少し回覧板を利用したりし働きかけていこうと思う
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		野菜を買ったり、朝の挨拶をしたり、回覧板を回したりとして、あちらからも、声のかけやすい雰囲気(関係づくり)づくりをしている
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町内会に加入している。こちらの行事(ホーム内である訪問や夏祭り等)への参加、又、避難訓練等にも呼びかけている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として実習生の受入は行っている	○	研修等ではホームの成果等伝えているが、地域では、伝えていないので、そのような機会を設けていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1回/月にある。勉強会の資料にもちいて、自己評価を全職員で読み上げ振りかえっている。結果は、職員にも渡して改善にむけて取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		○	行政機関の参加がままならない現状である。地域住民や家族の理解はあるので、今後も継続して働きかけていきたい。もっと会議自体が盛り上がる様、他ホームにも、教えて頂いたりして充実した会にしていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	協力が得られにくい、介護相談員の訪問等で関係づくりを継続していきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会の内容にも取り入れている。又、個別に必要な人にも、少しずつ、少しずつ、繰り返し、繰り返し、説明している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の内容に取り入れている。折りふれ、こういう場合は虐待につながる？等ケアを振り返って試している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料や退居となる場合、介護度が重くなる時や看取りの件、医療連携体制等は特に重点をおいて丁寧に説明しているつもりです	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言動を中心に記録をすることで、そう言わせるもの・そうさせることは何？と職員間で考え、共有し、ケアに活かしている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームで手作りしている広報誌に近況報告をコメントして毎月の請求書と同封している。又、金銭出納帳は、その都度で確認しサインを頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族は苦情や意見はいいにくいという事を職員は理解して、こちらから最近の状況等を声かけして、言いやすい雰囲気づくりをしている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃の職員との会話より、要望・意見・不満につながる事等を、拾い出せるようにと時間工夫をしている。又、運営者は、個人面談を設ける等している	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の身体変化にも対応できる様に、職員数にも余裕をもって、シフトを組んでいる	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとっては職員も環境の一因。ダメージを最小限におさえる為にも、入居者との馴染みの関係を大切に管理者と話し合い工夫している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修には、なるべく偏らない様に一覧表を作成して参加をうながしている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡協議会にも入り、研修等に参加し質の向上に取り組んでいる	○ 交換研修の話がでているので具体的にして実現していきたい(職員も他ホームの見学を含めた研修を望んでいる)
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の親睦を図るために職員旅行をしている。コーヒーを飲んでいき抜きしたり、職員同志の会話を楽しめる等、時間や場所の工夫はしている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は各自、自分にあつたそれぞれの目標をもち、資格習得をしている。そのためにできる範囲のこと(試験前後の休みの提供)を支援している	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面談し、入居者の生活状況や身体機能について把握し、ホームでどのように過ごせるか検討している	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間をかけて家族と向い合い問いかけ、言葉かけに工夫して、語って頂けるように傾聴している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを確認しながらサービスの利用につなげていけるようにしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	先ず見学して頂きます。見学の時間も皆と一緒にお茶を飲んでいる時間に合わせて来て頂いて、本人の様子をみながら家族と話し合っている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症である〇〇さんではなく、最後まで人としておつきあいさせて頂くことを基本として、お互いにできることをして頂き、できない事のお手伝いをさせて頂くという関係を保っている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支えられる様に、うれしい事やつらい事等の情報を共有して入居者の思いに添えるようにしている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係が平行移動できる様に、電話や手紙でのやりとりをこまめにしている	○	家族と疎遠な方もいらっしゃるので、家族会の理解をして頂く為の働きかけは(電話や行事への参加)継続していきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全てにおいてできるだけホーム入居前と同じように生活空間が移動しただけのようにと考えて、かかりつけ医・行きつけの美容院等今まで通り利用して頂いている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の集うところには職員も必ずいるようにして、会話に入ったりして関係がスムーズであるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつまでも声をかけやすいようにこちらから訪問したり、電話でも相談にのったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中からの言動を大切に、何をどのようにしたいのか、思っているのかを考えるように記録にして職員間で共有している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	教えて頂ける範囲で過去の情報を大切にしている。又、生活している中で初めて知ることもあるのでその際は、理解を深める為に記録したり、申し送り等で伝えたりしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各自、生活のリズムや暮らし方異なります。できること、プラス面を視点において、あわてさせず待って、見守って気配りしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族への参加も促し、本人・家族の思いをケアに生かせるように意見を頂いている。又、作成後にも教えて頂くことは他の入居者にもいえることでは?と思い、検討している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員と入居者・入居者と家族・家族と職員との間に生じるズレをできるだけ小さくする為に必要に応じて見直しする等の評価をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、その日の言動を記録しそれに対して職員は何を思い気づいたかをも記録して情報の共有化に務めている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の都合により通院はホームで対応をしている。医療連携体制も充実している (定期的な2回/1月の訪看・看取り・電話での連携等)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	数少ない機関しかないが、入居者の要望に応じて、よりよく豊かな生活が送れるように支援している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	当ホームだけでかかえ込んでいることにつながっている点があるような気がする。今後、必要に応じて外部のケアマネとの連携や介護保険外の生活支援に結びつくサービスを検討していきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	地域包括支援センターの活動が今後明確に、なおかつ、活用になることなので、関係が深まる努力をして、お互いに協力して地域の中で暮らす人々を支えていきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を利用して頂いている方もいる、その際はホームでの生活の事等の情報提供も行っている。又、受診結果等もご家族に報告している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけは見えない事、対応は毎日当たり前のようになっている事であるがゆえにとっても危険である。職員間でその時に言える雰囲気(教えて頂いてありがとう)を作っている。又、機会ある都度、例を挙げ各自に投げかけ振りかえってみることを大事としている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の言葉を尊重して、外出、食べたいものを一緒に考えて実現できるようにしている。(できるだけ、言ってこられたその日、その時に・・・その思いを大事にしたいから)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間の遅い方、また、外出を好む方、外食を好む方、毎晩赤ワインをコップ一杯飲まれる方、毎日入浴される方等、その方の思いのままにできるだけ寄り添って支えている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着る物は自分で選んで頂いている。口紅をさす方、必ず鏡を見る方、職員の服や持ち物に敏感な方とさまざまである。それぞれのおしゃれを大事にしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー一緒に考え、生ける日は買い物にも行ったり食材を切ったりしている。食文化も大事にして、だんご作り等は入居者に教えて頂きながら一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒屋に行ってワインを買ってきたりしている。それぞれの嗜好物を名前を書いて預かって、本人の食べたいときにお出ししている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の利用でパターンをよんでいる。尿意がないからリハビリパンツではなく、個別にパンツにナプキンのみで、夜間のみリハビリパンツというように個別に対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日わかしているので、入浴したいときに入浴して頂くようにしている。準備から着脱・洗身と一人の職員が対応している。また、拒む方は浴槽が見えるようにして、足でも温めましょう等と声かけの工夫で入浴につなげている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝付けない日は添い寝したり、温かい飲み物でおしゃべりしたりして配慮している。日中の過ごし方の工夫はとても大事である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれが1日の中で輝く時間をもてる場面をつくっている。(何かを切ったり作ったりするのもよし、一緒にテレビ観て笑ったりするのもよし・・・)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方等、個別に対応している。買い物に行く際には、預かり金より小額お渡しして支払って頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食、散歩等と出掛けている。天候や本人の体調を考慮したりして、気分転換をはかっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	可能な限りご本人の希望に添いたいと思い、「泊まりでの温泉に行きたい。」と、かなえる為、お金を積み立てて実現に向けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話は取り次ぎ、席を外している。また、入居者から電話をかけてほしいと要求された場合もかけて差しあげる。手紙も同様に速やかにお渡ししている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来て頂けるように、面会時間は決めていない。どんなに忙しくても挨拶だけは立ち止まってするよう心掛けている。そのことで、来訪しやすい雰囲気になればと思っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での勉強会の内容に身体拘束についてとして取り入れて、身体ばかりでなく、心の拘束ということも考えて学びにつなげている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関につけていたチャイムも外して、日中は全て自由の状態にしている。見守りしながら、入居者の思いを大事にして、一緒に散歩につなげたり、さりげなく声かけしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者がいらっしゃるところには職員も一緒にテレビを見たり、会話したりと過ごしている。夜間も巡視にて安全の確認をしている。全体が見通しよく、すぐ対応できる場所で待機している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	カーテンを工夫して目隠しにしている。包丁等は普通に管理していて、ハサミ等は先が丸いのを使ったりと、使用しても危険でない物を選んでる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	“ひやり・はっと”を活用し、事例検討として具体的に個別に予測されるリスクを話し合い、事故予防に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、蘇生術を教えて頂いたり、勉強会に救急法を取り入れたりしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回/1年の避難訓練を行っていて、近隣の住民の方にも声かけしている。(避難、誘導の確認や消火器の使い方)		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者に自由に行動して頂くことにより、予測されるリスクは個別に家族に話している。そのリスクに対して、ホームでのケアを検討し、自由に暮らして頂くことの大切さも含めて、説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の表情を観察したり、バイタルチェックをしたりしている。異変を感じたら、訪問看護ステーションに連絡し、助言頂いて様子観察したり、場合によっては受診につなげたりとしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の内容(用法・用量・副作用)が記されているものを綴じている。また、薬剤師訪問時に尋ねたりして、連携を図り、支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	手作りヨーグルトを毎日お出ししている。適度な運動も必要なので、運動や食事で工夫している。また、個別で排便チェックを行い、必要に応じて浣腸等を行っている、。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助を要す方には、お手伝いしている。毎食後の口腔ケアの声かけや、就寝前には義歯の洗浄を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に刻んだり、トロミをつけたりしている。食事量の少ない方には、捕食で高カロリーゼリーなどの工夫もしている。また、協力病院の栄養士の協力も得て、献立表のチェックや助言を頂いている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防対策をマニュアル化している。年間を通して、色々な感染症がいつ発症するかわからないので、予防として、うがい・手洗いの声かけをしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	できるだけ買い物には毎日行き、買いためしないようにしている。冷蔵庫もまめに掃除している。塩素系の消毒液による、消毒も行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	7階建てのマンションでオートロックである。(一般との共有にて)入りづらさもあるように感じる為、手作りの案内板を作ったり、花を植えたりの工夫をしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感に刺激を与えられるような、季節感を味わって頂けるように、手作りの物等を置いている。入居者の作品等も飾りにしているが、あまり飾り過ぎないようにもしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置き、そこで新聞を読んだりされている。また、エレベーター前の長椅子には座布団を置き、座ってみたくなるように工夫している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別により自室にテーブルと椅子、カーペットやファンヒーター等、その方にあった物がある。また、写真を飾ったりして、居心地のよい空間作りを心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房は適温であるように気を配り、空気の入換えをしながら換気にも努めている。また、入居者の「寒い」「暑い」の言葉にも耳を傾け、調整を図っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の流しは低く、長時間の一定の姿勢はきついため、リビングのテーブルを台所にかえて、そこで食材切りをしていたくなど、代用物で工夫し、自立できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の行動で混乱を招いた原因を探し、取り除くようにしている。その方の状況に合わせて、環境を整備している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑に野菜を植えて散歩を楽しめるようにしたり、ベランダにはプランターを置いて花を楽しめるようにもしている。天気の良い日にはスリッパをはいて外気浴しやすいようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある <small>全員の入居者とは言えないが…く偏る傾向にあるのが危険でもあ</small>
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○ “ひやり・はっと” の活用として毎月1回、事例検討会を設けている。最近名前のよく記されている入居者を例に挙げ、職員が入居者役となり、いつ・誰が・どうなったか